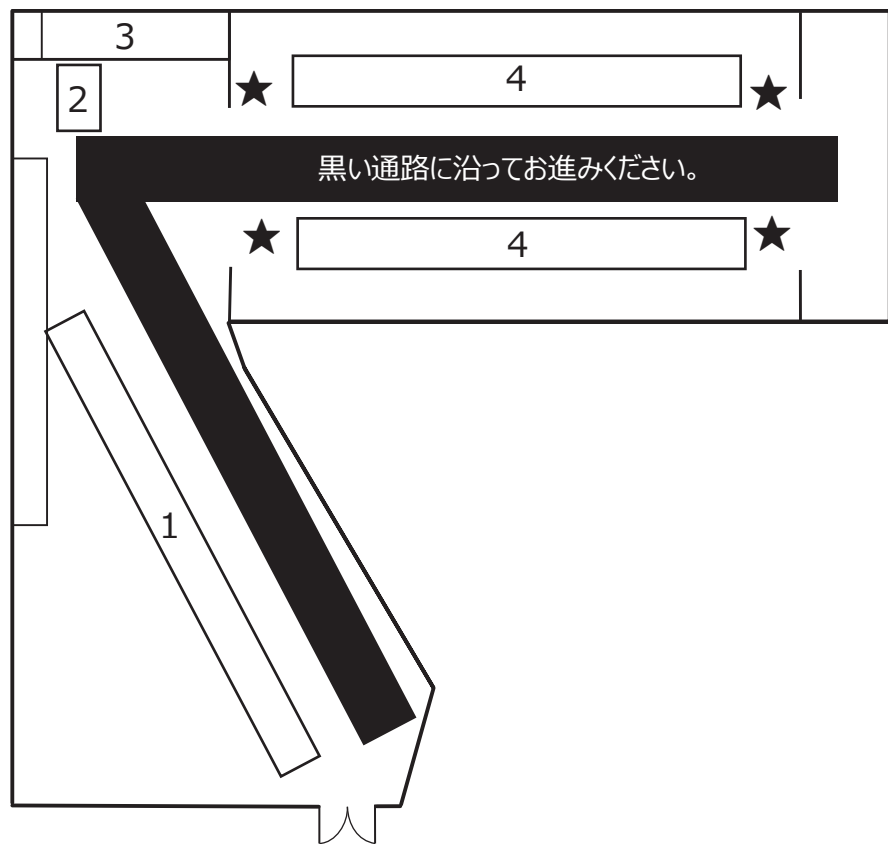


# 長谷川 隆子 刻の方舟

HASEGAWA takako Ark of Time

2026年6月13日(土)～8月2日(日)

- ※ 黒い通路に沿ってお進みください。通路の外には出ないでください。
- ※ 作品には、触れないでください。一部、作品との距離が近い場所では、接触に十分ご注意ください。
- ※ 下図★部分には、手の届く位置に作品を固定する透明の糸があります。接触しないように、十分ご注意ください。
- ※ 小さなお子様をお連れのお客様は、お子様から目をお離しにならないよう、ご協力をよろしくお願いいたします。



高松市塩江美術館  
Shionoe Art Museum

## 1. 刻の方舟

Ark of Time

旧約聖書のノアの方舟を手がかりに、絶滅の危機にある動物たちが、どこかへ向かって連なって進む姿を描いています。列の中には、すでに絶滅した動物も紛れています。方舟は救いの物語であると同時に、そもそも方舟を必要としてしまった世界のあり方を映し出します。私たちがこれからどう選び、生きていくのかを静かに投げかけます。

2026年  
H2500×W11000mm  
伊予和紙

## 2. ライフル

Rifle

ライフルは、動物に向けられてきた奪取と消費の構造を象徴します。銃口が観客側へ向くことで視線が反転し、動物を見る立場のままではいられなくなります。見ている側の位置が揺らぎ、私たち自身へ問いが返ってくる転換点です。

## 3. 奪われたもの

Forest of Gazes

瓶に収めたのは、《刻の方舟》の動物たちを切り出す過程で生まれた紙片です。動物の姿にならなかった部分であり、作品の外側に残ったものでもあります。ここでは、牙や角、うろこのように身体から奪われてきたものの記憶と、この「切り離されて残る」という事実を重ね、方舟の行列の背後にある欲望と断絶について、考えるきっかけになればと思います。

## 4. まなざしの森

Forest of Gazes

かつて二頭のゾウが暮らし生涯を終え、今後オランウータン舎へと変わっていく、とベ動物園旧インドゾウ舎で制作・展示した「まなざしの森」を、本展では塩江美術館の空間に合わせて再構成しました。動物たちが安心して生きられる環境への願いを、森の姿に重ねています。

2025年  
H2500×W12000mm  
伊予和紙  
art venture ehime fes2025 愛媛県立とべ動物園



「刻の方舟」では、絶滅した動物や、いま生存の危機にある動物たちをテーマにしています。

昨年、愛媛県立とべ動物園で制作した「まなざしの森」は、私にとって、動物たちを取り巻く現実を考える大きなきっかけになりました。繁殖に向けた努力が続けられる一方で、その場所で最後を迎える動物もいると知ったとき、私は旧約聖書のノアの方舟の物語を思い浮かべました。

大洪水という天災から生き延びるため、動物たちはつがいで舟に乗り込みます。しかし現実には、対となる相手を得られないまま、次の世代へつながらない命もあります。方舟は救いの象徴として語られますが、考えるほど、そこに乗ることのできなかつた存在のことが頭から離れませんでした。

そこには、人間の欲望や消費の歴史もあります。牙や角は装飾や富の象徴として、うろこは薬になると信じられ、命が尽きる前に奪われてきました。自然の摂理に反して、動物たちの刻は止められてきたのです。

今回の展示で伝えたいのは、そうした現実を説明することだけではありません。動物たちを脅かしているものは何なのか、私たちはどのような世界をつくってきたのか、そしてこれから何を選び、生きていくのか。

見ているつもりだったものが、いつの間にか自分自身を映し返す。そうした問いが、作品を通して鑑賞者一人ひとりの中へ返っていくことを願っています。

長谷川隆子